

小・中 学 校

平成 2 6 年度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	3
IV	研究方法	3
V	研究構想図	4
VI	研究内容	
1	調査の研究	5
2	小・中学校5年間を見通した年間指導計画の改善	6
3	検証授業	7
VII	研究の成果と課題	24

研究主題 課題意識をもち、家庭生活をよりよくしようと工夫し創造する児童・生徒の育成 ～小・中学校の5年間を見通して～

I 研究主題設定の理由

今日の社会は経済・産業構造が大きく変化し、知識基盤社会化やグローバル化が急速に進んでいる。また、少子高齢化や世界的な環境危機が深刻化しており、持続可能な社会システムの構築が急務となっている。さらに東日本大震災の教訓から、自助・共助・公助の重要性が再認識され、それを実践する意識と力を、全ての人が身に付けることが求められている。

これらの課題を解決し、変化し続ける社会に主体的に対応していくために、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることを目指す、家庭科の果たす役割は重要である。改訂された現学習指導要領では、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する観点から内容構成が改善され、小学校と中学校の内容との系統性や連続性を重視している。小学校は、「A 家庭生活と家族」「B 日常の食事と調理の基礎」「C 快適な衣服と住まい」「D 身近な消費生活と環境」、中学校は、「A 家族・家庭と子どもの成長」「B 食生活と自立」「C 衣生活・住生活と自立」「D 身近な消費生活と環境」と、内容構成が A から D の同一の枠組みとなった。

家庭科の学習は小学校5年生から始まるが、児童・生徒の興味・関心は高く、学習を楽しみにしている。また、家族の役に立ちたいと思っている児童・生徒も多い。

一方、今日の子供たちは、物が豊かで便利な時代に育ち物質的に満たされているため、生活の中での不便さを感じなくなってきた。衣食住などに関する、自分でやってみるという経験や体験も乏しい。したがって生活の中から課題を見だし、生活をよりよくしていこうとする必要感や課題意識をもちにくくなっている。また、家族や家庭の形態が多様化し、家庭がその役割を十分に果たしているとはいえない現状もある。

これらの社会的背景や学習指導要領における家庭科改訂の要点、児童の実態を踏まえ、本研究では、研究主題を「課題意識をもち、家庭生活をよりよくしようと工夫し創造する児童・生徒の育成」と設定した。

課題意識をもち、家庭生活をよりよく工夫し創造する児童・生徒を育成するということは、家庭生活における身近な課題を様々な角度から考える思考力、考えたことを基に課題の解決を図るための判断力、自らの考えを的確に表す表現力などを育むことであると考え。そのために、身近な生活の中から課題を見だし、実践的・体験的な活動を通してその解決を図る問題解決的な学習を、5年間を見通して指導する。

また、家庭生活をよりよく工夫し創造する児童・生徒を育成するためには、学んだことを生活に生かすことを通して、実践する喜びや家庭の中で役に立っている実感を味わわせることが重要であると考えた。

小・中学校5年間を見通して、実践的・体験的な活動を通して実感を伴って理解する学習を展開し、日常における実践を促す。更に実践を評価し新たな課題を見つけ改善していくというサイクルを児童・生徒に身に付けさせる手だてを研究し、主題にせまっていきたい。

II 研究の視点

日常生活の中から課題を見だし、家庭生活をよりよくする意欲を高めていくには、児童・生徒の家庭生活に関する興味・関心を引き出すことと、自信をもって実践できるよう基礎的・基本的な知識・技能の定着が必要である。そこで、小・中学校5年間を見通した衣食住に関する実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識・技能を定着させるよう「問題解決的な学習」を展開する。

その際、小・中学校5年間の学習内容を見通し、どのような実践や体験をさせるのか、どのような知識・技能を定着させるのかという視点で指導計画を作成する必要がある。その上で、実践的・体験的な活動から実感を伴った理解、日常における実践、更に実践を評価し、新たな課題を見つけて改善していくというサイクルを児童・生徒に身に付けさせる手だてを考えた。

1 実感を伴った理解を促す手だて

- ・題材の中で既習事項を基に実践させることで、実際の生活から自分自身の課題に気付かせ、課題を解決してよりよい生活を工夫したり創造したりする能力を高める。
- ・児童・生徒が自力解決できるような環境を整え、自分で課題を解決する達成感を味わわせる。
- ・実践的・体験的活動を文章にまとめたり、他者に説明したりすることで実感を伴った知識・理解を促すとともに表現力を高める。
- ・日常生活の中から課題をもつことができるように、日常生活とつながるような実物や実例などの教材・教具を示す。
- ・他の児童・生徒と意見をお互いに説明し合う活動を取り入れ、自分なりの課題に気付くきっかけを作る。

2 日常における実践を促す手だて

- ・学習したことを生かす場面を各題材の授業の中や家庭での実践で取り入れる。それによって、学んだことを生かす喜びを味わわせる。
- ・家庭の中で役に立っている実感をもてるような、課題や実践の設定をする。
- ・実生活に生かせる課題をもたせるために、題材の中で、児童・生徒が自分自身の家庭生活を見つめる機会を設定する。
- ・家庭科便り等を通じて、授業の中で使用する材料や課題等を家庭から見付けたり、学習したことを家庭生活で活用したりする場面の設定等について家庭への協力を依頼する。

3 実践を評価する手だて

- ・題材の中に、自分の実践を振り返る時間を設ける。さらに、指導計画の中に位置付ける。
- ・題材の終末に、他の児童・生徒と作品発表等を通じて相互評価を行うことを通じて、自分の実践を振り返り、友達のよさに気付いたり、新たな課題に気付いたりすることができるようにする。
- ・家庭での実践について、家庭からも評価してもらうことで、学んだことを家庭生活に生かす意欲につなげる。

Ⅲ 研究仮説

家庭科の学習において、小学校5年生から中学校3年生までの5年間を見通して、日常生活から課題を見だし、その課題を実践や体験を通して解決する学習を展開することで、家庭生活をよりよくしようと工夫し創造する児童・生徒を育成していく。このことが、生活者としての自覚と生活の自立につながっていくと考えられる。これにより、自ら日常生活の中での課題意識をもち、家庭生活の中で具体的に工夫したり創造したりする力を高めていくことができるであろうと考えた。

小・中学校5年間を見通して、日常生活の中から課題を見いだす指導をすることで、家庭生活をよりよくしようと工夫し創造する児童・生徒が育成されるであろう。

Ⅳ 研究方法

1 基礎研究

- ・文献研究… 小学校学習指導要領、中学校学習指導要領
東京都教育ビジョン（第3次）
言語活動の充実に関する指導事例集
評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料
- ・先行研究… 教育研究員研究報告書（平成22、24年度）
全国小学校家庭科教育研究会研究紀要

2 調査研究

調査時期：平成26年9月

調査方法：質問紙調査

調査対象：都内公立小学校4校 5・6年生児童734名
中学校3校 1～3年生生徒823名

3 検証授業

- 第1回検証授業 平成26年10月7日 稲城市立稲城第一小学校 今里 紀子教諭
第5学年 題材名「わくわくミシン～カーテンを使ったオリジナルカバーを作ろう～」
- 第2回検証授業 平成26年11月6日 世田谷区立駒留中学校 矢沢 千寿教諭
第2学年 題材名「衣服の計画的な活用方法を考えよう～オリジナルTシャツを作ろう～」
- 第3回検証授業 平成26年12月5日 板橋区立成増小学校 菅 慶子主任教諭
第6学年 題材名「工夫しよう楽しい食卓」
- 第4回検証授業 平成27年1月23日 大田区立馬込第三小学校 平久保 達弥教諭
第5学年 題材名「気持ちよく生活しよう～すっきりピカピカ大作戦～」
- 第5回検証授業 平成27年2月6日 江東区立第二辰巳小学校 出口 芳子教諭
第5学年 題材名「気持ちよく生活しよう～すっきりピカピカ大作戦～」

V 研究構想図



VI 研究の内容

1 調査研究

(1) 調査の概要

① 調査の目的

- ・児童生徒の家庭科学習や家庭生活についての意識を知るため。
- ・児童生徒の家庭実践の状況を把握するため。
- ・小中5年間のつながりを見通した指導を工夫するため。

② 調査時期

平成26年9月

③ 調査対象

- ・都内公立小学校4校において5・6年生児童734名に実施
- ・都内公立中学校3校において1・2・3年生生徒823名に実施

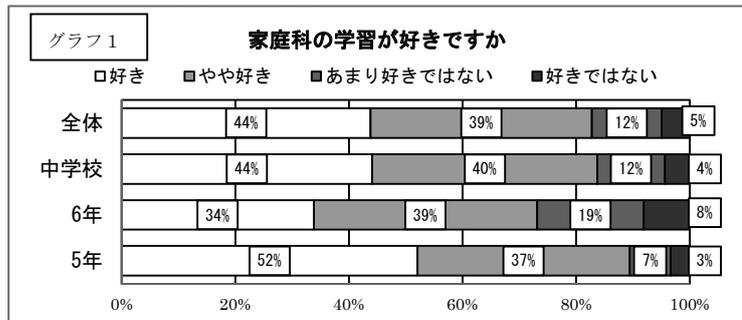
④ 調査の内容

- ・家庭科の学習への関心・意欲及び、それらを高める要因
- ・家庭科学習を系統的に学んでいる内容及びその具体的な場面の把握
- ・家庭生活上で課題意識をもっている内容の把握
- ・家族の役に立ちたい思いの有無及びその内容の把握
- ・家庭での日常的な活用の有無及びその内容、その促進要因及び阻害要因

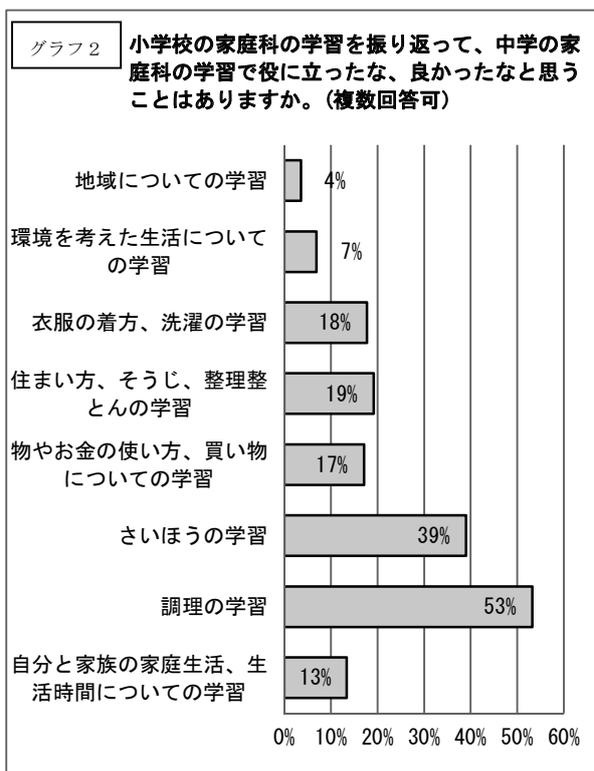
(2) 調査結果の分析と考察

① 家庭科の学習への関心・意欲及び、それらを高める要因

グラフ1から児童・生徒は家庭科の学習への関心・意欲が高いことがわかる。学年別に比較すると、家庭科を学び始めた5年生が最も高く、6年生で減少するが、中学校では増加に転じている。



② 家庭科学習を系統的に学んでいる内容及びその具体的な場面の把握



上記について中学校で調査した結果、どの生徒にも該当する項目があると回答しており、小学校での家庭科の学習を生かして、新たな課題に取り組んでいる。しかし、グラフ2の項目ごとに見ると、裁縫や調理の学習の比率が高く、地域との関わりや環境を考えた生活については全体のおよそ4%程度となっている。

このことから、これらの内容については、様々な題材と関連付けて、繰り返し指導することが必要である。

また、住まい方、掃除、整理整頓、衣服の着方、洗濯、物やお金の使い方、買い物についての学習では、比較的多くの生徒が役立ったと回答している。

このことから、小学校の学習を家庭生活で生かしている内容については、中学校の学習においても役立っており、繰り返し実践させることが効果的であることが分かる。

③家庭生活で課題意識をもっている内容の把握

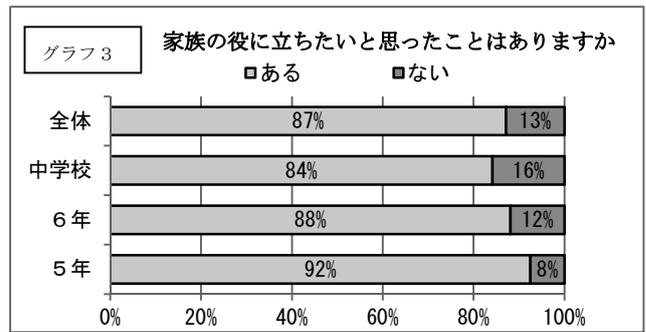
「衣食住に関して困っていることや、不便なことはありますか。」という自由記述の設問に対して、95%の児童・生徒が空欄としていた。記述している内容は、「好き嫌いが多いい。」が3名、「きれいに洗濯物を畳めない。」「ボタンがすぐ取れる。」「衣服の着方・色合い」「食生活が乱れている。」「一度作った料理を忘れてしまう。」「栄養のバランスを忘れてしまう。」「整理整頓が上手くできない。」「物を捨てられない。」「部屋が汚い。」「家の中のほこり」「早起きできない。」「寝るのが遅い。」「生活時間の決め方」「温暖化」「ごみを道に捨てる人がいる。」などが各1名である。

④家族の役に立ちたい思いの有無及びその内容の把握

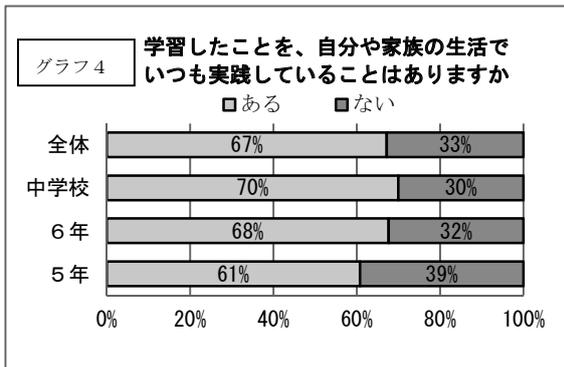
グラフ3から、家族の役に立ちたいという思いをもっている児童・生徒が全体の8割であることが分かる。学年別に比較すると、5年生が最も多く、成長するに連れて減少している。

しかし、思春期を迎えている中学生においても、8割以上の生徒が家族のために、家庭の仕事をしたいと思っている。

このことから、その思いを実践につなげる指導計画を工夫する必要がある。



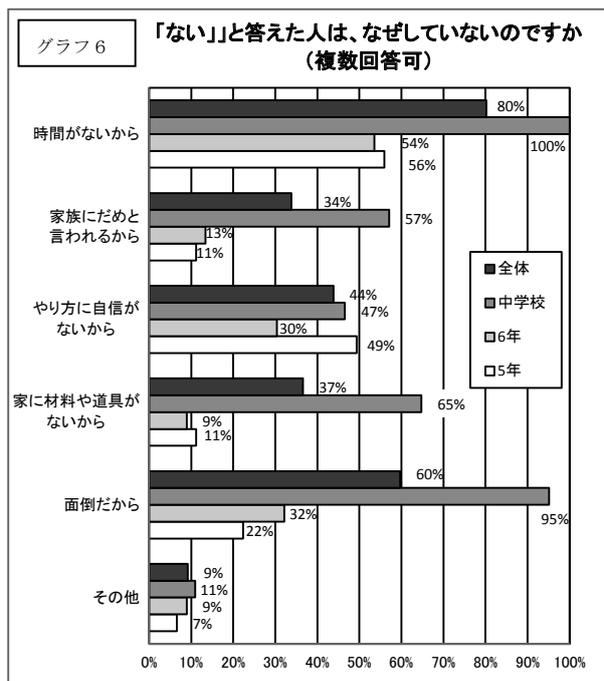
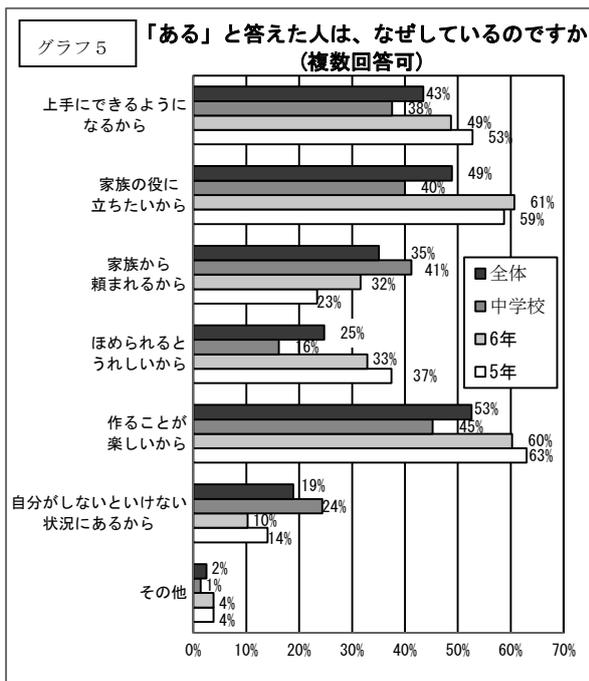
⑤家庭での日常的な活用の有無及びその内容、その促進要因及び阻害要因



グラフ4から、家庭での日常的な実践をしている児童・生徒は6割を超えていることが分かる。学年別に比較すると、既習事項の多さと比例して高学年になるほど実践していることが分かる。

促進要因としては、「作ることが楽しいから」「家族の役に立ちたいから」「上手にできるようになるから」が多い。

阻害要因としては、「時間がないから」、特に、中学生においては、「面倒だから」という理由が9割5分に至っている。実践を可能とする手だてを工夫する必要がある。



2 小・中学校5年間を見通した年間指導計画の改善

本研究では、年間指導計画・題材計画作成の段階で、小学校には、次につながっていく学習内容、中学校の関連する学習内容、中学校には小学校で学習した内容を示す項目を加えた。これによって、学習した内容がどうつながっていくのかを意識しながら指導ができ、題材の配列を考える際にも参考になると考える。

年間指導計画については、中学校との連携が必須であると考え。今回は同じ学区の小学校と中学校の年間指導計画を参考に一つの例として、小学校用、中学校用として作成した。

年間指導計画例【中学校1年生1学期】

	単元名 題材名	時数	主な学習活動	主な評価規準・観点	小学校での学習
4月	家族・家庭と 子供の成長	2	自分の成長を振り返り、自立した生活者を目指して3年間の学習に見通しをもつ。	(関) 小学校の学習を振り返り、自立した生活者を目指して3年間の見通しを持って学習に取り組もうとしている。 (関) 自分の成長や生活は周りに支えられてきたことに気づき、家族のはたらきを支えるために何が大切かを考えようとしている。	<u>5年1学期</u> さあ家庭科を学びましょう(ガイダンス) <u>6年3学期</u> 成長した私たち
	衣生活と自立	5	衣服の活用と選び方について考える。	(関) 衣服と社会生活との関わりに関心を持ち、時・場所・場合に応じた衣服を着用しようとしている。 (工) 目的に応じた着用や個性を生かす着用について考え、工夫している。 (知) 衣服の社会生活上の機能について理解している。	<u>5年2学期</u> 寒い季節を快適に ・暖かい着方 <u>6年1学期</u> 暑い季節を快適に ・すずしい着方
5月			衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れをする。	(知) 衣服の計画的な活用の必要性を理解している。 (関) 衣服の材料や状態に関心を持ち、課題に取り組もうとしている。 (工) 衣服の材料や状態に応じた洗濯や補修について考え、工夫している。	<u>6年1学期</u> 暑い季節を快適に ・手洗いで洗濯
6月		4	自分や家族の生活を豊かにするための、布を用いた物の製作に取り組む 基礎縫いを使って(小物製作)	(技) 衣服の材料や汚れ方に応じた方法で日常着の洗濯ができる。 (知) 洗濯の要点と方法について理解している。 (関) 小物の製作に関心をもって取り組もうとしている。 (工) 製作計画やデザインを工夫して考えている。	<u>5年1学期</u> はじめてみようソーイング ・手縫いの基礎 ・小物の製作
7月				(技) 安全で能率よく、製作をすることができる。 (知) 布を用いた物の製作に関する知識を身につけている。	<u>6年1学期</u> 生活を楽しくしようソーイング ・布を用いた作品の製作

年間指導計画例【小学校5年生1学期】

	単元名題材名	時数	主な学習活動とねらい	評価規準	6年生での学習	中学校での学習
4月	さあ、家庭科を 学びましょう (ガイダンス)	1	これまでの自分の成長を見 つめ、見通しをもって学習 に取り組もうとする。	(関)第4学年までの学習を振り返り、家 庭科学学習に関心をもち、学年間の見通し をもって取り組もうとしている。	3学期 成長したわたしたち ・自分の成長を振り 返ろう	1年1学期 私の成長と家族 (ガイダンス)
	見つけてみよう わたしと家族の 生活	1	1日の生活を見つめ、家庭 生活に関心をもち、家族に 協力しようとする。	(関)自分や家族の生活に関心をもち、 家族に協力しようとしている。	1学期 くふうしよう朝の生活 ・生活時間を見直そう	
5月	はじめてみよう クッキング クッキングはじ めの一步(2) かんたんな調 理をしよう(6)	8	調理に関心をもち、簡単な 調理をしようとしている。 ガスの安全な使い方や調理 用具の安全な使い方が分 かる。 材料や目的に応じてゆでる 調理ができる。 ・ゆでたまご ・ゆで野菜	(知)こんろや調理用具の安全な取り扱 い方について理解している。 (関)調理に関心をもち、ゆでる調理をし ようとしている。 (創)自分なりに工夫して調理計画を立 てている。 (技)材料に合ったゆで方ができる。 (技)調理に必要な用具や食器の安全で 衛生的な取り扱いができる。	1学期 くふうしよう朝の生活 ・朝食のおかずづく り(炒める調理) 2学期 くふうしよう楽しい食 事 ・身近な食品でおか ずを作ろう	1年3学期 調理をしよう ・リンゴの皮むき ・計量機器の使い方 ・肉の調理 2年2学期 調理をしよう ・魚の調理 ・ごはん汁物の調理
6月	はじめてみよう ソーイング 手縫いの基礎 (5) 布を使ってみよ うパートI(4)	9	玉結び・玉止め・並み縫い・ ボタン付けができる。 ・ネームプレート・ボタン付 け 製作に必要な用具を安全 に取り扱うことができる。 目的に応じた簡単な作品が 手縫いで製作できる。 ・小物作り	(関)手縫いに関心をもち、小物などを 製作しようとしている。 (創)形や縫い方などを工夫し、製作し ている。布の活用を見直し、製作す る物やその製作計画について考え たりして自分なりに工夫している。 (技)簡単な手縫いやボタン付け、小物 の製作ができる。 (知)用具の安全な使い方を理解している。 (創)製作した物を生活で活用している。	1学期 生活を楽しくしようソ ーイング ・生活に役立つ物を 考え、作ってみよう	3年3学期 幼児の生活と遊び ・幼児のおやつ調理 1年1、2学期 布を用いた物の製作 ・基礎縫いを使った小 物の製作
7月	できるようにな ったかな 家庭 の仕事 わたしにできる 家庭の仕事を 増やそう(1) 家族に協力し て仕事をしよう (1)	2	家庭の仕事に関心をもち、 家族の一員として、仕事を 分担しようとする。 ・家庭の仕事のいろいろ ・家庭の仕事の手順 ・わたしの仕事	(知)家庭には衣食住に関する仕事があ り、自分や家族の生活を支えている ことを理解している。 (関)自分の分担する家庭の仕事に取り 組み、家族に協力しようとしている。 (創)自分が分担した仕事の計画につい て考えたり、実践を通して自分なりに 工夫したりしている。	2学期 家族のためにやっ てみよう ・夏休みの実践を発 表しよう	3年2学期 これからのわたしと家族 ・中学生と家族の関わり ・これからのわたしと家 族の関係

3 検証授業

【指導事例 1】

(1) 題材名 第5学年「わくわくミシン

～カーテンを使ったオリジナルカバーを作ろう～

主な指導内容：「A 家庭生活と家族」(3) ア
「C 快適な衣服と住まい」(3) アイウ
「D 身近な消費生活と環境」(2) ア

(2) 題材の目標

○ミシン縫いに関心をもち、見通しをもって意欲的に製作しようとしている。また、自分の生活を振り返り、環境に配慮した生活をしようとしている。

(家庭生活への関心・意欲・態度)

○環境に配慮した生活について課題を見付け、家庭生活上で活用できるものを工夫して製作している。

(生活を創意工夫する能力)

○ミシンを正しく安全に使い、直線縫いをすることができる。

(生活の技能)

○ミシンの基本的な操作を理解している。また、不要な物を活用する方法について分かる。

(家庭生活についての知識・理解)

(3) 題材の評価規準

家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・製作に必要な材料や用具等を準備し、見通しをもって製作しようとしている。 ・自分の生活と身近な環境との関わりに関心をもち、物の使い方などを見直し、環境に配慮した生活をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活での布の活用について見直し、製作する物やその製作計画について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 ・環境に配慮した生活について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンを用いて直線縫いをすることができる。 ・自分の生活で役立てられそうな作品の大きさを考えながら製作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの基本的な操作が分かり、ミシンを用いた直線縫いの仕方について理解している。 ・環境に配慮した生活の工夫について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(4) 指導観

① 題材観

ミシンを使った製作の最初の題材である。ミシンの安全で正しい取り扱い方を学ぶとともに、内容 D と関連付けるために、旧校舎で使っていた古いカーテンを製作に活用する。

家庭での実践につなげられるように、布地の種類には織った布、編んだ布、フェルトなどのように繊維をからませて固めた布があり、ミシンを使った製作に当たっては織った布を選んだ方が縫いやすいことを事前に指導しておくことが重要と考える。

また、内容 A と関連付けるために、家庭で挑戦する際には、家族の思い出のある服や布地を使ってもよいという、家族を意識した観点を提示する。家族の思い出のある服や布地を活用することで、作品に愛着がわき、長く大切に使いたいという気持ちを育む。処分する予定だった服を使うことにより、資源ごみを減らし、工夫して作り替えるよさにも気付かせたい。

小学校でリサイクルを意識した製作活動を取り入れることで、日常生活においても環境に優しい暮らし方を意識し実践する一助となるものとする。また、小学校で環境の観点を反復的に学習させることで、中学校での環境についての学習につながりをもたせていけるものとする。

② 児童観

1 学期には、手縫いの基礎縫いによるマスコット製作や、ボタン付けの練習としてのプレスレット作りをした。製作を通して、物を手作りすることの喜びを実感できた児童が多く見られた。手縫いに関してはまだ技能の定着が十分ではないが、大変意欲的に取り組んでおり、ミシンの学習を楽しみにしている児童も多い。夏休みに裁縫の練習をしたり作品を作ったりする宿題を出した中に、ミシンの予習をしてきた児童が各クラス 2 名ずついる。

環境については、調理の学習において、ゴミを減らす工夫や節水、組み合わせ調理について扱ってきた。裁縫の学習においては、フェルトや糸を無駄にしないで活用することをおさえた。整理整頓の学習で、不用な容器を使って身の回りを片付けることも実践してきた。

環境に関する知識はもっているが、実践に至っていない児童が多い印象である。実践を通して学んだことを家庭生活に生かしていけるよう、手だてを工夫し働きかけていきたい。



③ 教材観

製作に使う古カーテンは、児童が 5 年間過ごしてきた旧校舎で使っていたものである。旧校舎で使っていた物を作り替え、生活で活用することは、印象深く児童の心に残るものであると考えられる。また、ミシンの導入として、共通の布地を使うことにより、糸の調子が狂ったり糸目が飛んでしまったりするトラブルを極力避けることができる。家庭実践の際、児童がスムーズに縫えるように、どんな服や布地が製作に向いているか、具体的に提示する。また、家庭科便りを通して、作ったマルチカバーをどんな物にかけて使うか話し合ってもらおう。家庭で実践する場合には、家族が着ていた服や思い出のある布地を活用して製作しても良いことをおさ

える。

ワークシートは、製作計画だけではなく、製作したオリジナルカバーを使った家族の感想を記入できる欄や家庭で実践したことを報告する欄を設け、学んだことを家庭で生かせるように工夫する。製作計画を立てた後や家庭実践後など、言語活動を充実させるために発表を多く取り入れる。その際にも、同じ様式のワークシートを活用していき、発表活動の流れを統一していく。

(5) 題材の指導計画と評価計画[全 10 時間]

次	時	小題材名	学習活動	具体的な評価規準				6年生及び 中学校との 関連 内容
				家庭生活への 関心・意欲・ 態度	生活を 創意工夫す る能力	生活の技能	家庭生活に ついての知 識・理解	
1	1	ミシン縫いにチャレンジ	布について調べてみよう				製作に必要な材料について理解する。	C 衣生活の自立 わたしたちの 衣生活 ・衣服の 材料について
			ミシンを試してみよう	ミシンに関心をもち、安全に使用している。			安全なミシンの取り扱い方や、ミシンの各部の名称が分かる。	
	からぬいを試みよう					線からずれないように気を付けながら、まっすぐに縫うことができる。	生活に役立つ物を作ってみよう (クッション、ウォールポケットの製作)	
	糸をかけたみよう					正しい上糸・下糸のかけ方が分かる。		
2	5	オリジナルカバーを作ろう	生活の中で出る不用品と、身の回りの布製を考えよう	不用品を別の物に作り替えることに興味をもち、すすんで実践しようとしている。	生活の中で不用品を工夫して活用しようと考えている。		不用品を別の物に作り替えることができることが分かる。	C 生活を豊かにする工夫 ・製作実習の基礎 (手縫い、ミシン縫いの基礎 基本復習)
	6		オリジナルカバーの製作計画を立てよう (本時)	家族が使う場面を考えながら、意欲的に活動している。	家族が楽しく使えるように、大きさやデザインを工夫してオリジナルカバー製作計画を立てている。			

3	7		しつけ縫いをしてみよう			布がずれないように気を付けながら、しつけをかけることができる。		お世話になった人たちへのプレゼント制作
	8・9		縫ってみよう			返し縫いや方向転換に気を付けながら、正しく直線縫いができる。		C生活を豊かにする工夫 ・製作実習の基礎 (ハーフパンツ制作)
4	10	楽しく使おう	振り返ろう 家庭で使用後の発表会	友達の発表を聞き、次回の製作活動に生かそうとしている。	製作の感想や改善点を自分なりに考え、工夫してまとめている。			

(6) 視点にせまる手だて

① 実感を伴った理解を促す手だて

- ・ミシンで直線縫いをするために必要な技能が身に付くよう、ミシンの取り扱い方や糸のかけ方、方向の変え方など、基礎的・基本的な事項を繰り返し練習するように働きかけた。また、習得できた際には認定証を渡し、意欲付けを図った。
- ・共通の材料として古カーテンを使うことで、布の素材の違いによる縫いにくさを解消し、児童にスムーズに縫えることへの自信をもたせた。
- ・児童が製作の見通しをもち、自ら課題解決できるよう、完成した作品の見本を提示したり、製作手順を示したりして視覚的理解を助ける掲示物を作った。
- ・家庭にある不用な服や布地に目を向け、捨てずにリサイクルする方法があることを意識付けた。また、思い出が込められた古カーテンを違う物に作り替えることで、愛着をもって長く使うことの良さも意識させた。
- ・製作につまずいた際、短時間で解決できるよう、直面しやすい状況に応じたヒントカードを用意し、児童が必要に応じて使えるよう整備した。
- ・計画した内容を、グループや学級全体で紹介し合う場面を設けた。また、使用後の発表会では、聞く人に伝わるように意識させながら、どのような物にかけて使ったか、家族の反応はどうかなどを言葉にする機会も設け、言語活動の充実を図った。
- ・実物投影機を活用して、児童の記入したワークシートを学級全体で見合うことで、視覚的理解を深めた。
- ・完成した作品を全員分掲示し、他学級の児童の作品からも学べる場面を設定した。

② 日常における実践を促す手だて

- ・今後の家庭科学習において、学んだことがどのように生かされ発展していくのかを児童に伝え、5年間の家庭科学習を見通した5年生段階での目的意識をもたせた。
- ・オリジナルカバーの製作計画を立てる際、家庭で活用する場面を思い描きながら、自分の考えを絵と文章にまとめる活動を取り入れた。

- ・「家庭科だより」を通して、不要な服や布地を用意することと大きさの目安、どんな物にかけるかを家庭で話し合うよう依頼した。
- ・持ち帰った後、児童への励ましの言葉をかけてもらえるように、協力を呼びかけた。
- ・児童が家族から褒められる場面が生まれることをねらい、ミシンの技能が身に付いた児童には認定証を渡した。全員が認定される程度の技能が身に付くよう、授業時間外でも挑戦できる時間を設けた。
- ・直線縫いを習得したことで、オリジナルカバー以外にどのような作品を作ることができるか作品例を示し、家庭実践への意欲を喚起した。

5年生 家庭科だより

平成26年9月30日(火)
 那珂第一小学校 家庭科
 今里 紀子

家庭科の研修へのご協力ありがとうございました

お礼が遅れましたが、研修の1人2枚の実践記録にご協力いただきまして、ありがとうございました。材料の準備から草点印刷まで、家庭のご協力あつての実践だったと思います。家庭科卒業に、5年生全員分限り出しておりますので、ご来校の際にぜひご覧ください。

リサイクル オリジナルカバーを製作します☆

2学期に入って、ミシンの学習を頑張っています。安全な扱い方や正しい縫い方を学び、線に沿って縫うことに一生懸命取り組んでいる子もたくさん。これから実際に布を縫うので、さらに上達していけるように指導していきます。同時に、環境にやさしい生活の仕方についても学習しています。

新校舎に移って間もない今は、リサイクルの観点から、旧校舎で使っていたカーテンを、オリジナルカバーの製作に活用します。お子様たちが実用的で素敵な作品が作れるように、家庭で協力していただきたいことがポイントです。

① カバーをかける物について話し合う。
電化製品や棚など、お子さんがよく使うスペースにかける物があると良いので、家庭で話し合い決めておいてください。

② かける物の大きさに合わせて紙を切ってくる。
大きさの目安は、新聞紙1枚の半分、1ページ分(41×54cm)です。ぬいしるは学校でつけるので、紙に書き入れなくて結構です。必要な物の大きさに合わせて、紙を切ってきてください。チラシや包装紙、カタログなどを使っても構いません。
新聞にサイズを測って書き入れておいていただけると助かります。

③ 残り布や端布、着れなくなった衣服などをお子様に持たせる。
カーテンは、クリアー色です。タフタム地に、はぎれの端を始末してミシンで縫い付けて模様を利用します。
新たに布を購入する必要はありません。
家庭にある残り布などで十分ですので、はぎれ布
ご用意をお願いします。



以上、ご多忙のところ申し訳ございませんがよろしくお願ひいたします。

事前に配布した家庭科だより ↑

③ 実践を評価する手だて

- ・作品を具体的にイメージしながら製作計画を立てることで、1時間ごとの個々の課題を明確にする。 (自己評価)
- ・自分の計画をグループの児童に発表することで、自分の課題に気付く機会を作る。 (自己評価)
- ・次回の作品製作に向けての成果と課題を考えるために、製作後に使用感を話し合ったり、家族の評価を聞いたりする時間を設ける。 (自己評価)
- ・グループの他の児童の発表を聞くことで、自分とは違う考え方や工夫に触れるきっかけを作る。 (相互評価)
- ・ミシンを使う際にはペア学習を取り入れ、意図的に教え合う機会を設ける。 (自己評価・相互評価)
- ・より多様な工夫に触れ、次の製作に生かそうとする意欲をもてるように、他学級の児童の作品を掲示し、鑑賞する機会を作る。 (自己評価・相互評価)

(7) 本時【4/10時間】

① 小題材名 オリジナルカバーを作ろう

② 本時の目標 古カーテンを活用し、オリジナルカバーの製作計画を立てる。

③ 展開

	学習活動	・教師の支援	*評価
導入 7分	<p>○家庭で出る、不要な布製品を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着られなくなった洋服、古くなったタオル、はぎれ など <p>○不要な布製品を活用する方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売る、人にあげる、掃除に使う、他の物に作り替える など 	<ul style="list-style-type: none"> ・不要な布製品の例として、大袋に詰めた古カーテンを提示する。 ・6年生のリサイクルクッションの作品例を提示する。 	
展開 33分	<p>○学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>カーテンを使ったオリジナルカバーの製作計画を立てよう</p> </div> <p>○オリジナルカバーの作り方を確認する。</p> <p>○家庭でどんな物にかけて利用できるか、かけて使うとどんな良いことがあるかを発表する。</p> <p>○ワークシートに製作計画をまとめる。</p> <p>○班の中で発表、交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の流れを一覧にして提示し、どのように学習を進めていくかを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作手順とポイントを押さえる。 ・場面を想像して具体的に記入できるよう声掛けする。 *自分や家族の生活に関心をもち、どのような活用の仕方があるかを考えている。【関心・意欲・態度】 (観察、ワークシート) *具体的に製作する過程や使う場面を考えながら製作計画を立てている。【創意工夫】(ワークシート) ・友達の工夫や良いところを考えながら発表を聞くよう声かけをする。 ・友達の発表を聞いて、自分思い付かなかったことや、今後役に立てたいことを交流させる。 ・次時には上糸と下糸のかけ方を学習することを伝える。 ・友達の工夫やよいところを考えながら発表を聞くよう声かけをする。

ま と め 5 分	○友達の発表から、考えたことや参考になったことを発表する。 ○次時の学習内容を知る。	・友達の発表を聞いて、自分が思いつかなかったことや、今後に役立てたいことを交流させる。 ・次時には、上糸と下糸のかけ方を学習することを伝える。
---------------------------	---	--

(8) 板書計画

カーテンを使ったオリジナルカバーの製作計画を立てよう	ワークシートの 拡大掲示 (説明・作業において、 児童が視覚的に捉えやす いように該当箇所を 矢印で示す。)			
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> ☆家庭で出る不用な 布製品 ・着られなくなった 洋服 ・古くなったタオル ・はぎれ </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> ☆何にかけようかな？ ・パソコン ・物を入れたかご ・電化製品 ・たな </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> ☆かけるとどんな 良いことがある？ ○ほこりがよけられる。 ○きれいな状態が保てる。 ○かけてあるときれいに 見える。 ○目かくしになる。 </td> </tr> </table>	☆家庭で出る不用な 布製品 ・着られなくなった 洋服 ・古くなったタオル ・はぎれ	☆何にかけようかな？ ・パソコン ・物を入れたかご ・電化製品 ・たな	☆かけるとどんな 良いことがある？ ○ほこりがよけられる。 ○きれいな状態が保てる。 ○かけてあるときれいに 見える。 ○目かくしになる。	
☆家庭で出る不用な 布製品 ・着られなくなった 洋服 ・古くなったタオル ・はぎれ	☆何にかけようかな？ ・パソコン ・物を入れたかご ・電化製品 ・たな	☆かけるとどんな 良いことがある？ ○ほこりがよけられる。 ○きれいな状態が保てる。 ○かけてあるときれいに 見える。 ○目かくしになる。		
友達の発表から考えたこと ◎弟や妹のことを考えてデザインを決めていたのがよかった。 ◎オリジナルカバーをかけることで、見た目がきれいに見えるよさもあることに気が付いた。				

(9) 考察

① 成果

- ・事前の課題や家庭科便り発行を通して、家庭との連携が取れ、児童の家庭実践への効果的な手だてとなっていた。
- ・5年生の現段階で、不用な服や布地、カーテン布を活用したことは、リサイクルを意識して生活する上での第一歩として適当であった。小・中5年間を見通し、意図的・計画的に題材を構成することが望ましい。
- ・児童の理解を促す掲示物や教材が準備されていて、課題の自力解決ができていた。
- ・ミシンの基礎基本が確実に身に付くよう、ヒントカードや認定証の工夫があり、児童が意欲的に学んでいた。
- ・ミシンのペア学習や、班・学級全体での発表交流により、学び合いの機会が作れていた。
- ・題材の中で毎時ごとに、自己評価や相互評価を行う場面を取り入れることができた。
- ・習得した技能を生かして作れる物を紹介したり、他の児童の作品を掲示したりすることは今後の作品製作への意欲を喚起するきっかけとなっていた。

② 課題

- ・製作計画をワークシートに記入したり、班の児童に発表したりする場面において、工夫する内容を具体的に示すことで、より一層作品をイメージしやすくなったと思われる。
- ・押さえるべきことを確認してから発表活動に入ることで、限られた時間の中でも他の児童の考え方や工夫に充分触れることができる。
- ・製作においては個人差が大きいので、個に応じた指導を充実していく必要がある。

(10) 補助資料

【資料① 製作手順の見本】



【資料② 作品完成見本】



【資料③ ワークシート】

↑視点①「実感を伴った理解を促す手だて」として、完成品の見本や実際の作成手順の実物見本を提示した。

カーテンを使った(オリジナルカバー)の製作計画を立てよう

5年(1)組

○オリジナルカバーを作ったら、何にかきたいでしょう。

トースター

○かけるとどんな良いことがあるでしょう。

ほこりがかぶらない。

○製作計画

大きさ 縦 28 cm × 横 41 cm

デザイン画 料理をしたときの布

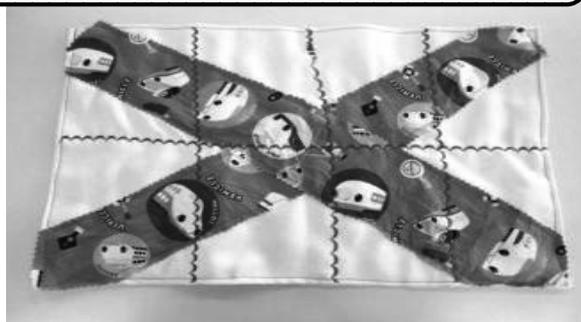
メンバー	どんな物に かけるか	発表を聞いて 良いと思ったこと
	物入れ	デザインが星が大きくて 目立って良いと思った。
	電話	余った布を上手に使って 小さい
	小さい パソコン	小さくなるときの服の 部分を使っていた。

○友達を発表を聞いて、考えたことや参考になったことを書きましよう。

沢山の人が自分で工夫をしてかっこ良い
カバーができて、とても参考になりました。

【資料④ 児童の作品】

↑視点③「実践を評価する手だて」として、児童の発表を聞いて良いと思ったことや考えたことなどを記入するワークシートを用意した。



【指導事例 2】

- (1) 題材名 第2学年「衣服の計画的な活用方法を考えよう
～オリジナルTシャツを作ろう～」

主な指導内容：「A 家庭生活と家族」(3) ア
「C 衣生活・住生活」(1) アイ
「D 身近な消費生活と環境」(2) ア

(2) 題材の目標

- 衣生活・環境生活に関心をもち、衣生活をよりよくしようとしている。
(生活や技能への関心・意欲・態度)
- 衣生活・環境生活との関わりを考え、社会生活の中で環境に配慮して個性を生かす着用を工夫している。
(生活を工夫し創造する能力)
- 基礎・基本を踏まえ、環境に配慮しながら自分のアイデアを生かした考えを加えながらTシャツ製作をすることができる。
(生活の技能)
- 製作過程を十分に理解し、自分の作品について工夫点や環境に配慮したリメイク方法について、他者に分かりやすく言葉で表現することができる。
(家庭生活についての知識・理解)

(3) 題材の評価規準

生活や技能への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・関心をもって衣服着用、選択について考え衣生活をよりよくしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を生かす着用について工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本を踏まえ、個性を表現して作品を仕上げることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業手順や製作方法を正しく理解している。 ・作品の工夫点について分かりやすく表現できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した消費生活について学習活動に取り組みよりよい生活を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した消費生活について課題を考え、その解決に向けて工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣生活と環境との関わりを考え、工夫し製作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した衣生活について課題を見つけ、日常生活に生かすリメイク方法を考えることができる。

(4) 指導観

① 題材観

本題材では、学習指導要領家庭科分野内容C「衣生活・住生活の自立」とD「身近な消費生活と環境」を関連させ、小学校で学んできた手縫いの基礎を踏まえながら、知識と技術を発展させてTシャツ製作を行う。Tシャツの飾りつけは、家庭にある不用な布製品を用いて自分なりの工夫を加える。その材料となる物は、家庭に帰り、自ら探す。その中で家族との思い出のある古着や布地から活用方法を考えさせたい。この活動を通して、家族や家庭生活を意識させながら製作活動に取り組みせるようにする。このような流れで学習を進めていくことにより、生徒が作品に対する愛着をもてるようになると思う。また、一人一人が製作手順を確認し作業の見通しをもって自立した活動計画を立て、製作できるようにする。

以上の取り組みから、生徒が学んだことを家庭生活に生かし、進んで役立てようとする姿勢を育めるものとする。

② 生徒観

中学校段階は、流行やおしゃれへの関心が高まる時期であることから、自分自身で衣服を選択し、購入する生徒が多くなる。最近では、小中学生向けのファッション雑誌も増えてきていることから、中学生向けの安価で質の良い服が売っている。中学生でも簡単に購入することができる。そうした中で、使い捨て感覚で衣服を購入し、流行が過ぎた服や補修が必要となった服は、すぐにゴミにしてしまう生徒もいる。また、自分の衣生活が資源や環境にどんな影響を与えているかを考える機会は少なく、服を大切に長く着るという気持ちが育ちにくい現状がある。家庭科の授業で学んだはずの基礎的基本的な縫い方や補修も、人に頼む姿が見られる。そのように、家庭科の学習がなかなか実生活につながっていかない実態がある。生徒の「やってみよう」という意欲をもたせる題材が必要である。

③ 教材観

生徒が衣服生活の中で、最も興味・関心をもっていることは、自分らしさをファッションを通して表現するということである。そこで「オリジナルTシャツ」の製作を通し、手作りの喜びや衣服の大切さ、衣服で表現することの楽しさを味わわせたい。また、自分の衣生活が環境に与える影響への気づきをねらいとし教材とした。

まずはこれまで学んできた基礎縫いでTシャツの本体を製作することを通し、生徒に達成感や自信をもたせたい。そして、Tシャツの飾りつけについては、生徒が身に着けなくなったものを再利用し、工夫するために用いるボタンや刺繍糸なども、なるべく家にあるもので代用させるようにする。これにより、着なくなった服でも工夫してもう一度使うことが、結果として環境にやさしい工夫であることにも気付かせたい。楽しく環境にやさしい活動を体験することで、実生活の中でも、衣服を長く、大切にすることができ基礎的な知識と技術、実践的な態度を身に付けさせたいと考える。

(5) 題材の指導計画と評価計画 [全 10 時間]

次	時	小題材名	学習活動	具体的な評価規準				小学校との関連内容
				生活や技能への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解	
1	1	衣服の計画的な活用方法を考えよう	T シャツ製作計画	・自分で考え製作計画を立てようとしている。			・製作計画を立てることができる。	C 快適な衣服と住まい (ア)
	2		T シャツ製作 (しるし付け)			・正確にしるし付けをしている。	製作の手順を理解している。	C 快適な衣服と住まい (3) イウ
2	3・4・5		T シャツ製作 (縫う)		・目的に応じた縫い方をしている。	・手縫い (なみ縫い・本返し縫い・まつり縫い) ができる。		C 快適な衣服と住まい
	6・7		T シャツ製作 (飾り付け)		・環境に配慮するために不要な布などの活用方法を工夫している。		・衣生活と環境について関連付け理解している。	D 身近な消費生活と環境 (2) ア
3	8・9		ペアで発表原稿を作ろう		・自分の T シャツについて分かりやすく工夫して紹介している。		・友達の T シャツについて紹介文を考えることができる。	C 快適な衣服と住まい (1) ア
4	10		T シャツ発表会を開こう (本時)		・友達の T シャツについて工夫点を理解し分かりやすく紹介している。		リメイクすることで長く大切に使うことの大切さを理解することができる。	C 快適な衣服と住まい (1) ア D 身近な消費生活と環境 (2) ア

(6) 視点にせまる手だて

小・中学校5年間を見通した中学における効果的な学習指導について、布を用いた製作を小・中学校で連続して配置し、技能の確実な習得が可能となるよう計画を立てた。学習指導要領家庭科分野内容C「衣生活・住生活の自立」とD「身近な消費生活と環境」を関連させ、布・針・糸を用いた製作の継続を図る題材の中に、環境に配慮した視点を加えることで小学校では環境を考えたカバー作りを、中学校では、リメイク方法を生かしたTシャツ製作を行うこととした。このように、布を用いた製作や衣服製作において必要な基礎的・基本的な知識や技能の習得スパイラルにより、確実な技能の定着を図れるよう連携して指導計画を立てた。

① 実感を伴った理解を促す手だて

- ・小学校で学んだ基礎縫い（なみ縫い・本返し縫い・まつり縫い）を想起させTシャツを製作した。
- ・ペア学習・ファッションショーを取り入れ、学び合いの機会を設けた。
- ・家庭にある不用品の活用と関連させ、課題意識をもたせた。
- ・環境に配慮した点から、Tシャツのデザインを考えさせた。
- ・ICTの活用により、Tシャツの飾り付けでリメイクした物の現物を見せ、視覚的理解を深めた。
- ・ファッションショーを通して、Tシャツを日常に生かす場面を具体的に考えさせた。

② 日常における実践を促す手だて

- ・衣服の社会生活上の機能について知り、目的に応じた衣服の着こなしについて考えさせた。
- ・家庭にある古い布製品の手入れをし、リメイクすることで、習得した技能を日常生活に生かそうとする態度を養った。
- ・「感想カード」に家族からのコメントを記入する欄を設け、家庭で生徒がTシャツを活用している様子や感想を記入してもらった。

③ 実践を評価する手だて

- ・Tシャツ紹介カードの作成をし、自分のTシャツについての紹介の仕方、見直した自分の衣生活の仕方を考えた。 (自己評価)
- ・自分の衣生活を改善するための工夫・創造の内容、自分の考え変容をノートに記録した。 (自己評価)
- ・ペア学習を取り入れ、生活に生かすための視点を基にした、自他の衣生活の良さやアドバイスの取り入れ方を考えた。 (相互評価)
- ・ファッションショーの中で、友達のTシャツ・コーディネートから、自分なりの課題に気づかせる機会を設定した。 (相互評価)
- ・衣服生活の中で自ら課題を探し、実践することで、家の人から評価してもらう機会を設定した。 (相互評価)
- ・生徒の活動状況や態度を観察した。 (教師評価)
- ・生徒のつまずきに即対応できるよう個人観察を徹底した。 (教師評価)

(7) 本時【10/10 時間】

- ① 小題材名 衣服の計画的な活用方法を考えよう
- ② 本時の目標
個性豊かな装いを自分らしく工夫し、作品について発表することができる。
- ③ 展開

	学習活動	・教師の支援	*評価
導 入 7 分	<p>○本時の学習課題を知る。</p> <p>○ファッションショーについて説明を聞く。</p>		<p>・学習内容を分かりやすく説明する。</p>
	オリジナルTシャツを、ペアで発表し合おう		
展 開 33 分	<p>○2人ペアでモデルと説明者に分かれ、作品を発表する。</p> <p>○観察者は評価を記入する。 [記入例] モデル：紹介されたタイミングで、工夫部分を指し示していたのが分かりやすかった。 説明者：小学校低学年の頃に着ていた服からポケットを取って使ったことについて、具体的に紹介していた。</p>	<p>・Tシャツ製作に使った材料の写真を、実物投影機を使って生徒に示す。</p> <p>・BGMで雰囲気を出す。</p> <p>・モデルとなる生徒には、説明に合わせて見やすくTシャツを示すよう、説明者を務める生徒には、工夫点を聞き取りやすく伝えるよう指導する。</p> <p>・評価表には、モデルと説明者それぞれの良かったところや工夫点を、具体的に記入させる。</p> <p>*友達のTシャツについて工夫点を理解し、分かりやすく紹介している。</p> <p style="text-align: center;">【生活を工夫し創造する能力】</p>	
ま と め 5 分	<p>○感想や考えたことを発表する。 [発表例] ・不用品な布を捨ててしまえばそれまでだが、アイデア次第で良い作品に生まれ変わることができるので、これからも工夫して使っていきたい。 ・自分には思いつかない工夫を友達がしていたので、次に作品を作る時の参考になった。</p> <p>○次時の学習内容を知る。</p>	<p>・リメイクすることの意味を想起させ、今後の家庭実践にどのように生かしたいか考えを発表させる。</p> <p>*リメイクすることで長く大切に使うことの大切さを理解することができる。</p> <p style="text-align: center;">【生活や技術についての知識・理解】</p>	

(8) 考察

① 成果

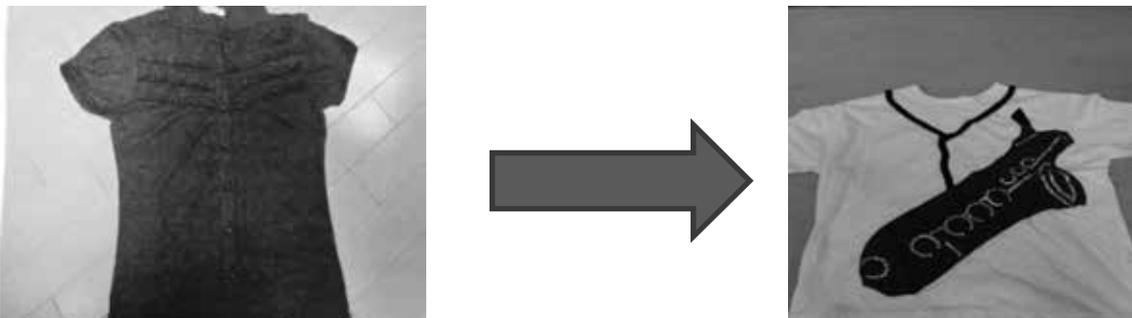
- ・小学校で習得した基礎縫いの技能を想起させ、製作活動の中で十分生かすことができた。
- ・実習前や実習時において、実践例を紹介することにより、自分の作品をよりよくするための工夫や課題意識をもたせることができた。
- ・学習段階にそって、体験学習を取り入れたことで、生徒の学習意欲が高まり、製作計画から発表まで課題意識をもって取り組むことができた。
- ・ペアワークやファッションショーを通し、学び合うことができた。
- ・実物投影機を利用したことで、生徒にわかりやすい指導ができた。
- ・製作において家庭の協力を得ることができ、家庭との連携を深めることができた。
- ・「感想カード」により、手作りのTシャツを家族に褒めてもらうことで、生徒の意欲や自信につなげることが確認できた。
- ・「課題解決カード」により、習得した技能を家庭で生かすことができた。また、家の人から評価してもらうことで意欲をもたせる。

② 課題

- ・評価シートについて記入項目が発表の仕方についての評価内容に偏っていたので、作品についての評価内容も加える必要がある。
- ・技術面において、理解不十分な生徒も少数いたので、机間指導の回数を増やすなど、個に対応できる指導の充実を図ることが必要である。
- ・生徒の立場になって質問内容を考え、評価に生かしやすい質問にするよう検討を重ねていく必要がある。
- ・Tシャツ製作だけでなく、生活のどのような場面で基礎縫いが使われているか、紹介することで活用方法の幅を広げていく必要がある。
- ・基礎的・基本的な知識及び技能を更に定着させていくためには、家庭での実践が必須であることから、今後も家庭と連携しながら、家庭実践カードなど効果的な課題を提示していく必要がある。

(9) 授業資料

【資料①生徒作品】



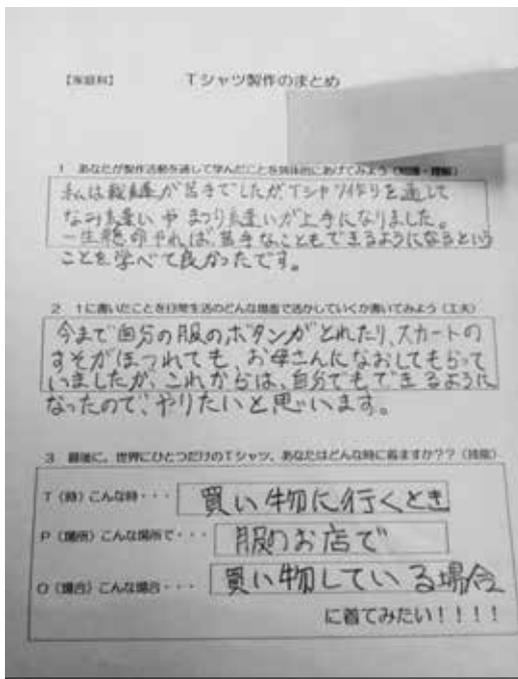
↑視点①「実感を伴った理解を促す手だて」として、小学校で学習した基礎縫いでTシャツ本体を製作し、家庭との連携によって準備した古着をリメイクし、オリジナルTシャツの飾りに使う活動を設定した。既習事項を生かしながら工夫し創造することができた。

【資料②Tシャツ発表会】



↑視点①「実感を伴った理解を促す手だて」として、オリジナルTシャツを製作者自身がモデルになって着用し、手持ちの洋服とコーディネートして発表会に臨む。2人1組になってモデル役と、モデルの作成したTシャツやコーディネートよさを説明役の生徒が発表する。Tシャツ制作上の工夫やコーディネートの工夫について伝え合う活動が実感を伴う理解を促す活動になった。

【資料③ワークシート】



↑視点②「日常における実践を促す手だて」として、学習の振り返りや技能を生活に生かす工夫、TPOについてまとめるためのワークシートを用意した。

【資料④評価カード】



↑視点③「実践を評価する手だて」として、生活における技能を生かす発表を聞いていと思ってことなどを記入する評価カードを用意した。

VII 研究の成果と課題

1 成果

本研究では、研究主題を「課題意識をもち、家庭生活をよりよくしようと工夫し創造する児童・生徒の育成」と設定し、主題にせまるために、小・中学校5年間を見通した年間指導計画を作成した。このことにより、小・中学校5年間の学習内容のつながりを意識しながら指導することができた。

また、小・中学校5年間を見通して、実践的・体験的な活動を通して実感を伴って理解する学習を展開し、日常における実践を促す。更に実践を評価し新たな課題を見つけ改善していくというサイクルを児童・生徒に身に付けさせる手だてを研究した。

研究の視点にそった具体的な成果は次の通りである。

(1) 実感を伴った理解を促す手だて

- ・ペアやグループ等で友達の工夫やよい点を発表し合う言語活動を設定したことにより、実感を伴った理解をより促すことができた。
- ・児童・生徒が自力解決できるような環境を整えたことにより、自分で課題を解決する達成感を味わわせることができた。
- ・製作する者の材料や課題を、児童・生徒の日常生活の中から見付けることで、自分の生活と身近な環境との関わりに関心をもたせ、実践的な学習を展開することができた。

(2) 日常における実践を促す手だて

- ・学んだことを生かす場面を学習や家庭での実践に設定し、家庭からの感想や励ましの言葉をもらったことにより、児童・生徒の学習意欲が高まった。
- ・家庭科だよりを発行し、家庭科の学習の情報を提供することで、家庭の協力を得ることができ、児童・生徒の家庭実践への意欲を高めることができた。

(3) 実践を評価する手だて

- ・題材の中に実践を自己評価する時間を設けたことで、児童・生徒が自分の課題に気付き、課題を解決しようとする意欲を高めることができた。
- ・題材の終末で、製作した作品を発表し合う交流会を設定し相互評価を行ったことで、自分の生活をよりよく工夫しようとする意欲を高めることができた。

2 課題

- ・小学校家庭科と中学校技術・家庭科の指導者が、地域や児童の実態や発達段階を考慮しながら、効果的に指導する手だてを共通理解するためには、各地域において、小・中学校の指導者同士の交流や研究を深めていく必要がある。
- ・本研究では、小・中学校5年間の学習内容を見通した年間指導計画を作成した。今後は、身に付けさせたい力の系統表を作成し、小・中学校の系統性や連続性、一貫性を重視した指導を更に充実させていきたい。
- ・課題意識をもち、家庭生活をよりよくしようと工夫し創造する児童・生徒を育成するためには、よりよい生活を目指して課題を解決する能力を育む指導を充実させることが重要である。課題解決の過程を評価し、その評価を次の指導に生かしていく、指導と評価の一体化についても今後研究を深めていきたい。

平成26年度 教育研究員名簿

小・中 学 校 ・ 家 庭

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
板橋区	成 増 小 学 校	主任教諭	◎菅 慶 子
江東区	第 二 辰 巳 小 学 校	教 諭	出 口 芳 子
大田区	馬 込 第 三 小 学 校	教 諭	平久保 達弥
稲城市	稲 城 第 一 小 学 校	教 諭	今 里 紀 子
世田谷区	駒 留 中 学 校	教 諭	矢 沢 千 寿

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課
指導主事 各務美紀

平成26年度
教育研究員研究報告書

小・中学校・家庭

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕
平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社